

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
自ら考え ともに伸びていく心豊かな子どもを育てる よく聞き、自分で考える子 話し合い、力を合わせる子 最後までやりぬく子	「しつけの徹底と学び合いの推進」 基礎的生活習慣の定着を図ります。 基礎的・基本的な学力の定着を図り、思考力を育みます。 自分を大切に、友だちを思いやる心を育てるとともに、支え合う集団を育てます。 家庭や地域、保幼小中の連携を密にし、その教育力を指導に生かしていきます。



調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 全国 学力の分布グラフが2コブになっており、学力の低い児童の割合が国・算ともに多い。 長い文章を読むことに慣れていない。 学力が全国平均を下回っている。 算数A・Bともに設問ごとの全国平均とくらべて、学力が劣っている。 算数では、小数の足し算や図形が低い。活用力を問うB問題では全国平均を上まわっている項目もある。 国語では、A問題の漢字を書いたり読んだりする基礎的な学力は全国平均を上まわっている。 文章やポスター、必要な項目を選択できない。 県 学力は県平均に比べると多少低いが、観点ごとのバランスはとれている。 国語については、漢字に関する読み書きはよくできているが、作成、活用、文法などに課題がある。 算数については、四則計算、立方体、百分率が特に低い。 社会については、県平均を上回っているものもあり、ある程度力があると言える。 理科は全体的に低い(特に人の体)。 分布図を見ると、校内ではM字曲線になり2極化している。	【学習状況調査の結果】 グループ学習について、一定の評価がでている。 家庭でのサポートが受けにくい状況にある。 将来の夢があるという児童が多いが、決まりを守る児童がすくない。夢に向かってなにかするという児童が少ない。 テレビ、ゲームなどの時間が非常に長い。(4時間以上と3時間以上は、県平均の2倍の視聴時間がある) 読書が習慣化していないが、学校の図書室の利用は良くできている。 県に比べると決まりが守れない児童が多い。 家庭学習のやり方を教えてもらった項目がとてども低い。 わからないことがあっても、そのままにしている児童が多い。 土曜日の午後は、自由に過ごしている児童の割合が多い。(スポーツ活動参加の割合が低いかもしれない) 自尊感情が低いことでやる気が失われている。 30分以下の家庭学習時間の児童が多い。



成果と課題	課題に対応した改善方法
成果 活用力を問う問題では全国平均を上回っている項目もある。 国語の漢字の読み書きといった基礎的な学力は全国平均を上回っている。日常の反復学習の成果と考えられる。 社会については、県平均を上回っているものがあり、ある程度の学力がついている。 グループ学習について一定の評価がでている。校内研修で取り組んでいる「学び合い」の成果と考えられる。 課題 学力の分布グラフが2コブになっており、学力の低い児童の割合が多い。 長い文章や長い問題分を読むことに慣れていない。 算数の図形、百分率、小数の足し算が低い。 国語の作成、活用、文法に課題がある。	基礎基本の定着も大切だが、学習したことを活用した応用力をつけることが必要。 書く力をつけるための学習活動を積極的におこなう。…作文指導、自分の考えをノートに書く。 文の読み取りの力をつけるために読書量を増やす。…移動図書館、学級文庫の充実、朝読書などの活用 学力テストと同等又は、以前の問題に全員で取り組む。…県の到達度テストの活用(学年を1つ下げたものも良い) 理数系の基礎基本の徹底を図る。復習をしたりプレテストを行い、どこにつまずいているか把握する。 テレビ、ゲームの時間を減らす。…保護者への呼びかけと意識改革 ノートをゆったりと丁寧に書く。…算数については定規を使って丁寧に書く 家庭学習の手引きを活用し、家庭での学習時間を増やす。 無回答(空白)提出者を減らすため、あきらめず最後まで問題に取り組むように指導する。 表やグラフを活用した授業を工夫する。 文章を読んで要約する力をつける。

取組の検証方法及び検証時期	達成目標(数値目標)
単元の終わりと年度末に同類の問題を解く。 児童に生活アンケートをとって、自分の生活の振り返りと改善を図って懇談やお便りなどで知らせる。 12月、3月に読書量調査を行う。 児童のノートを集めて検証する。	今年よりも県平均との差が縮まる。 現在より、テレビやゲームの時間が減る。 週に1時間以上の読書時間の割合を増やす。…長い問題も読めるようになる 学力テストに準じたプリントが全校で活用される。 児童のノートがきれいに書けている。